創価大学
糖鎖生命システム融合研究所 第32回 コロキウム

ヘパラン硫酸調節分子としてのヘパラナーゼ：
糖鎖認識の特徴と炎症性疾患における関与

講師

東 伸昭 先生
星薬科大学 薬学部
生化学研究室 教授

日付：2025 年 11 月 28 日（金）

時間：16時35分～18時05分

場所：E201 教室

講演概要

ヘパラナーゼは、当初、転移性メラノーマ細胞が産生する基底膜ヘパラン硫酸分解酵素として同定された。この酵素反応の結果生じる生成物は、分子量5kDa以上の比較的大きな糖鎖断片である。このことから、ヘパラン硫酸の分解のみならず、ヘパラン硫酸の機能調節としてのヘパラナーゼの役割に関心がもたれている。ヘパラナーゼの糖鎖認識機構は、この酵素の機能を理解する上で、また阻害剤を設計する上で解明すべき課題と考える。

演者は、炎症性免疫細胞の機能に着目して、ヘパラナーゼに関する研究に携わってきた。さらに、ヘパラナーゼの機能や細胞内分布を調節する分子についても検討をすすめている。本発表では、(1) ヘパラナーゼの糖認識における二重機構、(2) 糖認識分子としてのヘパラナーゼの利用、(3) 炎症性免疫細胞と炎症性疾患におけるヘパラナーゼとヘパラン硫酸の発現、について議論してゆきたい。

問い合わせ先
伊藤和義：kazuyoshi@soka.ac.jp
研究所HP：https://www.soka.ac.jp/glycan/